



# わがまちこの人

## 『竹久夢二の絵の輝きと、この町のかがやきさんとの出会い』

私がこの町にきて七年になりました。夫婦二人で来た当時



時は、なぜここに辿り着いたのかを考える日々。家族で過ごしていた楽しかった昔のことを思い出して

は涙するようなそんな生活を送っておりまして。ある日ふと目に留まった壁の絵、竹久夢二の『里船屋』。そこには『さだめなく鳥やゆくらむ青山の青のさみしさかぎりなければ』と書かれていました。

一人で寂しく死んでいこうと覚悟を決めたように読めた詞。何だか私に向けられたような複雑な思いをしたことをはつきりと覚えています。

しかし、絵を見ていたら描いてみたいと思つてやったことが、今では三百枚を超える作品となつています。小さいころから夢二に憧れ、また絵を描くことも好きでした。夢二の本もいくつもありました。展覧会にも度々足を運びましたが、未だに行けていな

いのが岡山県にある夢二の生家。出来ればいつか行つてみたい場所のひとつです。なぜなら四十九歳と短い生涯の中で膨大な作品を残し、その絵と詞が多くの人々に愛されて止まない人物ということ。そこに私は強く惹かれたのです。少しでも夢二に近づきたい一心で、それから絵を徹底的に模写しています。今では生きがいとなつています。

それからもう一人との出会いは、町内会の役員となり寿地区の行事で出会つたあのかがやきさんとの出来事があります。文化祭でのかがやきさんの、涙を流しながら歌つたり踊つたりと必死に感情を盛り上げる姿に感動しました。他の行事ではお笑い芸人さんかのように被り物をしながら人を楽しませる姿にも共感し、かがやきさんのお手伝いをしたくなるような気持ちにかられるくらいでした。

今となつてはこのような幸せな日々をこの人たちにいただけだことだと思ひ、この町会に出会えて心から感謝しています。生かされる以上、残りの人生をこの素晴らしい町会とともに生きていければと心から願つてやまない次第です。

【竹原町町会

田中 収】

# 心にホツとコンサート

3月3日10時より寿公民館2階大会議室にて『心にホツとコンサート』が開催されました。

今年度はヴァイオリン奏者の牛山正博氏とピアノ伴奏者の渡辺しおり氏による演奏と、寿小学校5年2組による発表が行われました。



ヴァイオリン演奏 子供も盛り上がり

第一部の牛山氏は1993年に松本市芸術文化奨励賞を受賞され、松本モーツアルトオーケストラの代表、ヴァイオリンスクールの主宰、地域でポランテシア演奏をされている著名な方です。

アンコールを含め、全12曲演奏されました。サラサート作曲ツイゴイネルワイゼン等の有名な曲から、となりのトトロ等の子供達が一緒に歌える曲までバラエティーに富んだプログラムでした。

ヴァイオリンの有名な曲では伸びやかな音から緊張感のある音まで抑揚のある素晴らしい演奏でした。また、アンコールでは小さな子供が踊つていたり、小学生と一緒に歌つたりして盛り上がりました。



クイズ出題中



息のあったボディパーカッション

第二部の5年2組の発表はリコーダー演奏、クイズ、ボディパーカッション、合唱でした。クイズは寿小学校や松本市に関するもので、地域のことを知るよいきっかけになりました。寿小学校は明治時代に開校したそうです。ご存知でしたか？

ボディーパーカッションはリズムに乗って息の合った発表でした。最後に青木公民館長から小学生にインタビューがあり、恥ずかしそうに答えていました。

プロの緻密で迫力のある演奏と、小学生の楽しい発表を合わせて楽しめる素晴らしいコンサートでした。

萩原 寛之 館報委員

# 編集後記

平成29年度最後の『松本市公民館報『寿版』』の発行となりました。各町会から選出された館報委員12名が、毎月1回集まって、企画会議・編集会議を経て2ヶ月に1回(奇数月の月末)発行しています。

この寿版では、館報委員が自ら取材したり、当事者に記事依頼したりしながら、寿地区共通の話題や町会独自の行事や催し物等を紹介しています。

また、文化祭には、毎年、館報委員会として独自の作品展示を行つています。平成27年度から3カ年計画で始めた「寿地区史跡マップ」は今年度で無事終了しました。

この1年間、館報委員の皆様を支えられて無事委員長を務めさせていただきました。また、快く取材に応じてくださった皆様に感謝申し上げます。有難う御座いました。

# 館長退任のあいさつ

地域の皆様方の支えにより6年の任期を無事務めさせていただきました。心より感謝申し上げます。寿地区の益々の発展をご祈念申し上げます。

青木 茂人